

令和6年度 学校努力点

令和6年度努力点テーマ

われら宝神の子 カ一杯輝く

1 主題設定の理由

本校の生徒は、素直で朗らかな生徒が多く、概ね気の合う友人と和やかに学校生活を送っている。今年度の学校アンケート(生徒用)でも「学校生活を楽しんでいるか」の質問について、約9割を超える生徒が肯定的に答えており、学校生活を楽しんでいることが分かる。生活面では、体育大会や音楽祭、修学旅行、稲武野外学習などの行事を、自分たちで企画・運営したり、仲間と協力したりすることで、仲間とともに行事を創り上げている姿を見せている。しかし、自分の言動に自信がもてないときには、消極的になってしまったり、教師に答えを求め、深く考えたりすることなく言われた通りに行動してしまう様子が見られる。また、自分がとった言動が相手にどう捉えられるかを深く考えなかったり、相手が傷つく言葉を平気で言ったりしてしまう生徒の様子がある。

学習面では、授業を集中して受けている姿が見られる一方で、単元毎の小テストや定期テストの結果を見ると指導したことが結果につながっていないことが分かる。このことから、生徒は、授業を集中して受けているものの授業内容を知識として理解したり、理解した知識を活用して思考したりすることができていないことが分かった。また、分からないことやできないことがあると、すぐに諦め、「分かるまで」「できるまで」粘り強く取り組もうとする姿勢が見られなくなる生徒が一定数いる様子が伺える。

このような現状を改善するためには、自分で判断し自分で決める力、相手の心の基準で相手を理解しようとする力、困難なことにも諦めない力を養うことが重要だと考える。また、これらの力を養うことは、彼らが迎える「予測が困難な時代」「多様性を認めていく時代」を生きていくために重要な力になると考える。これらの力を学校教育の中で養い、一人一人の生徒がカ一杯輝く姿を引き出していきたい。

そこで本年度は「われら宝神の子 カ一杯輝く」を学校努力点のテーマとして、教育活動を展開していく。

2 令和6年度の取り組み

① 自分で判断し自分で決めることができる生徒の育成

【生徒指導】

生徒が答えに悩んだり、困ったりしたときに教師が「こうした方がよい」と行動の方向性を示すのではなく、「どうしたらよいと思う」「解決するためにはこの考え方とこの考え方とがあると思うけど、どちらがよいと思う」などと問い掛けたり提示したりし、生徒が自分で判断し、決定したという経験を積ませていく。

【学習指導】

学習指導においては、教師が生徒に知識を伝えるだけの授業ではなく、生徒が実感を伴って知識を理解できるようにしていく。そのために、学び合い活動に重点を置く。教師が学習課題を設定し、その課題を解決するための発問をする。そして、その答えを自分や仲間と考え試したり、試した結果からよりよくなる方法をさらに考えたりするなど、自分たちで課題を探究することで実感を伴って知識を理解できるようにする。教師は、生徒が考えたことを実行できる機会や場を準備し、生徒の学びの伴走者となって支援していく。

② 相手の心の基準で相手を理解することができる生徒の育成

【生徒指導】

問題行動やトラブルが起こった際に、教師は起こった事象について指導するのではなく、どうしてそのような行動をしたのかを生徒から丁寧に聞き取り、その上で指導に入る。そうすることで、生徒と教師の信頼を強めていく。また、普段の会話でも「できないよ」「無理だよ」など否定的な言葉掛けを避け、生徒が挑戦したい気持ちを肯定することで、生徒が安心して挑戦できるよう支援をしていく。

【学習指導】

生徒一人一人の知識や技能、思考には差があり、それを認めていくことが大切だと考える。学び合い学習においては、相手の話を否定せずに聞く、どんな考えでも発信するといった学び合い活動の進め方を教師と生徒で作成し、安心して自分の意見や考えを発信できるような環境づくりをしていく。

③ 困難なことにも諦めない生徒の育成

【生徒指導】

生徒が諦めずに粘り強く取り組むためには、成功体験を積み重ね、「分かった」「できた」を実感することが大切だと考える。生徒が成功体験を積み重ねるために、教師は生徒が立てた計画をチェックし、適切なアドバイスを送ったり修正したりすることで、成功体験を積むことができるように支援していく。

【学習指導】

生徒の「分からなかったことが分かった」「できなかったことができた」、「もう少しで分かりそう、できそう」を大切に、生徒自身が自分の成長を実感できるようにしていく。そして、生徒が自ら「もっとやってみたい」「違うやり方で試したら結果はどうなるだろう」と思えるような取り組みをする。そのために、個々の学習状況に応じた課題を提示したり、単元を通して思考や技能の変化が見取れるようなポートフォリオ型の学習カードやICT機器を活用して学習を振り返ったりすることができるようにする。

令和6年度は、以上3点に重点を置いて教育活動に取り組み、「われら宝神の子 カ一杯輝く」生徒の姿を引き出していく。

3 取り組みを振り返り、公開するにあたって

- (1) 一人一実践の研究授業を行う。研究授業後には、授業検討会を行い、授業を振り返り、授業改善していく。特に、学校開放日では努力点テーマに則した授業を行い、保護者へ授業を公開していく。
- (2) 授業参観や学校行事の後に、保護者に努力点テーマに関するアンケートを実施する。
- (3) 生徒・保護者にアンケートを実施し、実践の振り返りを行う。
- (4) 努力点について全校集会や学校だよりで生徒や保護者へ知らせる。

4 各教科の目標の設定(R6年度)

国語	互いの違いを認め合い、自分の考えをもって輝く国語科指導
社会	自ら学習課題を設定し、資料を基に仲間と考え深め合うことを目指す社会科指導
数学	基礎・基本の定着を通して、「できた」「分かった」を実感し、一人一人が輝ける数学科指導
理科	仲間とともに、自分たちの課題を解決していける理科指導
英語	粘り強く言語学習に取り組むことで、英語でのコミュニケーションに自信をもち主体的に他者と会話する姿勢を育てる英語科指導
音楽	自分の意見をもち、仲間との学び合い活動を通して、音楽表現を工夫できる生徒を育てる音楽科教育
美術	表現活動や鑑賞活動を通して、自ら計画的に制作することができる美術科指導
保体	「分かる」を「できる」につなげる体育科指導
技家	仲間と協力し、生活をよりよくするための技術・家庭科指導
道徳	仲間とともに考えることで、仲間の気持ちをに気付き、仲間を思いやることのできる道徳科指導

5 年間推進計画

学期	内 容	流 れ
1	○ 実践計画立案 (指導部会・教科部会・学年会) ○ 共通理解(全体会) ○ 授業実践(1学期)内容の検討 ○ 授業実践開始	☆ 教科指導の中で指導の具体化と具体的手だての検討 ☆ 令和6年度学校努力点の周知・理解 ☆ 1学期の授業実践に向けた内容の検討 ☆ 体験的行事における取り組みの検討・実践 ☆ 授業実践 ☆ 授業の振り返り協議
2	○ 中間のまとめ ○ 中間まとめ報告会(全体会) ○ 授業実践(2学期)内容の検討 ○ 授業実践開始	☆ 中間まとめに向けた検討・資料作成 ☆ 中間まとめで各教科の成果や課題の報告 ☆ 1学期の授業実践に向けた内容の検討 ☆ 授業実践 ☆ 授業の振り返り協議
3	○ 授業実践のまとめ (指導部会・教科部会・学年会) ○ 最終まとめ報告会(全体会) ○ 次年度の実践の方向検討(推進委員会)	☆ 最終まとめに向けた検討・資料作成 ☆ 次年度へ向けての課題検討

※ 授業実践について、一人一実践とし、一学期または二学期で実践を行う。その際に「授業の見所シート」を成し、全職員に配布し、可能な限り参観を行う。

※ 実践のまとめを行うのは「1・2・3学年、特別支援級、生徒指導部、特活指導部、保健指導部、 学習(各教科:道徳含む)」とする。

記入例

授業の見所シート「われら宝神の子 カー杯輝く」

日時	令和6年4月1日(月) 第2限 2時間目／12時間完了	授業者	坪井 淳治
教科・単元	保健体育・陸上競技(ハードル走)		
本時の目標			
「スピードを落とさずにリズムカルにハードルを越すために必要な動きを見付けよう」 (思考・判断)			
主な学習活動			
- あいさつをする - 準備運動をする ・ケガのしやすい、太ももや足首のストレッチを十分に行う。 - 本時の目標を知る ・「スピードを落とさずにリズムカルにハードルを越すために必要な動きを見付けよう」であると伝える。 - 自分の考えを書き出す ・学習カードに自分の考えを書き出させる。 - 自分の考えを試す ・35m(3台)のハードル走に取り組ませる。 - 試して気付いたことを書かせ、再度試させる。 ・気付いたことを学習カードに記入させる。 ・35m(3台)のハードル走に取り組ませる。 - 自分の考えをまとめ、仲間と共有する ・自分の考えを発表させる。仲間の考えを聞いて、次時に取り入れたいことをメモさせる。 - 本時の振り返り、次時に向けて ・本時の目標の振り返りや次時の取り組みたいことを記述させる。			
} ここは25分間をとり、生徒は集合しない。			
本時の見所			
本時は、自分の考えを試すことで、リズムカルにハードルを越すために必要な動きを考えさせた。自分が考えたことを試している姿や仲間と対話しながら自分の考えを整理していくことで、必要な動きを見付けている姿を引き出したい。			

参観者メモ

名前 _____

生徒の様子	授業者の良いところ	授業者の発問・発言
授業の疑問点	自分なら	その他

●年●組 理科 授業デザイン

努力点 研究授業
授業デザイン
例

○ 令和●年●月●日 (●) 第●時間目 第1理科室

○ 授業者：近藤健司

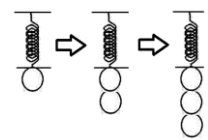
○ 単元「力と圧力」

1 はじめに（授業をご覧いただいている皆様へ）

突然ですが・・・、以下の問題①について説明をしてみてください。

問題①

力の大きさとバネののびはどのような関係にあるのでしょうか？（つまり、言い換えると、「バネにおもりを1個、2個、3個・・・と引っかけていくと、バネののびはどうなっていくのでしょうか？」ということです。）

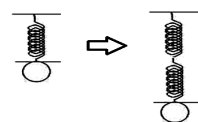


正解は、力の大きさとバネののびは比例の関係になる、です。つまり、おもり1個でバネが10cmのびた場合、おもり2個ではバネののびは20cm、おもり3個ではバネののびは30cm・・・となっていきます。これを『フックの法則』といいます。

それでは・・・、以下の問題②についても説明をしてみてください。

問題②

2本直列につないだバネに、おもりを1個引っかけると、2つのバネの合計ののびはどうなるのでしょうか？



正解は・・・、これは授業の中でぜひ！！

2 授業のねらい

中学校新学習指導要領の完全実施を見据え、既習の知識を基に理科の見方・考え方を働かせ、理科の資質・能力で求められている思考力を養う。そのために、「力と圧力」の単元において、2本直列につないだばねに力を加えた場合、それぞれのばねに力がかかることを、既習の知識を基にした自分の考えを吟味し、確証実験を通して、見いださせる。

3 授業の展開

- (1) 前時の学習（力の大きさとばねののびは比例の関係にあり、これを『フックの法則』ということ）について確認した上で、本時の学習課題を提示する。
- (2) 本時の学習課題に対する自分の考えを学習プリントに記述させる。
- (3) 本時の学習課題に対する自分の考えを班の友だちに説明させる。その際、聞き手には、話し手の考えに対して、質問をさせたり問い返しをさせたりする（【自分の考えの精緻化】）。
- (4) 異なる2つの考え（考え①、考え②）をもつ生徒を意図的に指名し、指名された2人の生徒に自分の考え（考え①、考え②）をそれぞれ説明させる。その際、聞き手には、不明点や疑問点を明らかにさせ、その上で、考え①と考え②に対する自分の考えを学習プリントに記述させる。
- (5) 全体での話し合いをさせる（【考えの競合】）。その上で、学習課題に対する自分の考えを改めて記述させる。
- (6) 確証実験を行わせる、まとめの活動をする。

4 授業の見どころ

異なる2つの考え（考え①「ばねの合計ののびは、ばね1本の場合でもばね2本直列につないだ場合でも変わらない」と考え②「ばね2本直列につないだ場合、それぞれのばねに力がかかるため、ばねの合計ののびは、ばね1本の場合と比べて2倍になる」）について吟味した上で、確証実験を通して、課題を解決していく姿をぜひご覧ください！！

【学習プリント添付の意義】

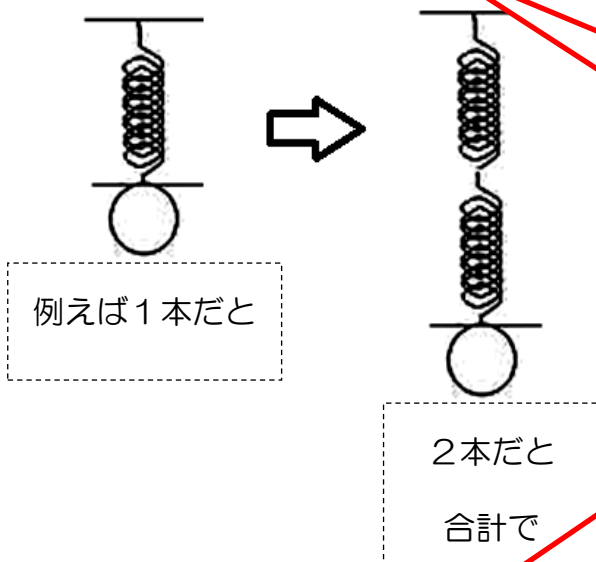
参観者に授業の内容や流れが伝わりやすくなるので、「授業デザイン」に「学習プリント」を付けることがお薦めです。必須ではありません。

～前回の学習（「力の大きさとばねののびの関係」）の復習～

力の大きさとばねののびの関係は比例する＝フックの法則

直列に2本つないだばねにおもりを引っかけた（力を加えた）場合、ばねの合計ののびは、1本のばねに同じおもりを引っかけた（同じ大きさの力を加えた）場合のばねの合計ののびと比べてどうなるだろうか。（※ただし、ばねの重さは考えなくてよい）

【自分の考え（予想とその理由）】



【学習課題の設定は必須】

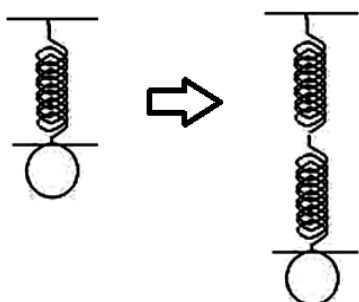
深い学びをもたらすために、また、教師がねらいをもって授業を行うために、毎回の授業で「学習課題」は必ず提示します。

【主体的で対話的な活動を行うために】

子どもが自ら、他者とのコミュニケーション（やりとり、話し合い、議論、考えの競合）を図っていくことが、主体的で対話的な学習活動へとつながります。

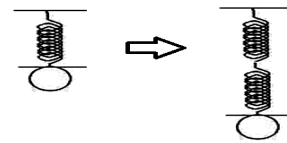
そのために、はじめに「学習課題」に対する自分の考えをもたせ、それとともに、他者の考えを知ること、自分と他者とのコミュニケーション（やりとり、話し合い、議論、考えの競合）を生み出すきっかけをつくりま

【他の人の考え】



【発表された考えを聞いて】

考え①（発表した人→「 」くん・さん）



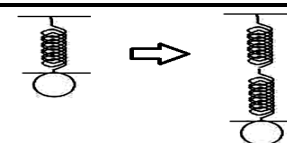
考え①を聞いた後の自分の考え

(例)「賛成。なぜなら、・・・・・・。」、「反対。なぜなら、・・・・・・。」

「自分の考えが・・・なふうになった。なぜなら、・・・なところに納得したから。」

「自分の考えは変わらない。なぜなら、・・・・・・なところの説明がおかしいから。」

考え②（発表した人→「 」くん・さん）



考え②を聞いた後の自分の考え

(例)「賛成。なぜなら、・・・・。」、「反対。なぜなら、・・・・。」

「自分の考えが・・・なふうになった。なぜなら、・・・なところに納得したから。」

「自分の考えは変わらない。なぜなら、・・・なところの説明がおかしいから。」

【全体での話し合い後の自分の考え】

検証実験

お	0 [g]	10 [g]	ン（やりとり、話し合い、議論を行い、思考を深めます。	
【深い学びをもたらすために②】				
思考をより深めたら、体験的活動（実験、実践）を行い、より正しい（確実な）知識・技能を身に付けさせます。				
ばねののびの合計 [cm]	0 [cm]	1. 5 [cm]	0. 2 [N]	0. 3 [N]
2つの				
ばねののびの合計 [cm]	[cm]	[cm]	3. 0 [cm]	4. 5 [cm]
			[cm]	[cm]

※100 gのおもりにはたらく重力の大きさを1 Nとして考える。

※はたらく力の大きさが 0 N のときは、ばねののびは 0 cm である。

【学習課題に対するまとめ】

本時の授業の最後に、1時間の授業をふり返って、何がわかったか（何ができるようになったか）を、子ども自身がまとめ、深い学びへとつなげていきます。

【深い学びをもたらすために①】

既習の知識・技能を踏まえて、主体的・対話的に他者とのより深いコミュニケーション（やりとり、話合い、議論、考えの競合）を行い、思考を深めます。

【深い学びをもたらすために②】

思考をより深めたら、体験的活動（実験、実践）を行い、より正しい（確実な）知識・技能を身に付けさせます。

← 1つのばね
での実験結果

目標

生徒一人ひとりが明るく活発に過ごし、自信をもって
自分の良さを生かそうとすることができる学年指導

1 目指す生徒像

- ・ 自分の良さに気付き、得意な点を生かして集団に寄与しようとする生徒。
- ・ なかまの良さを認め合い、互いに尊重し合える生徒
- ・ 礼儀正しく、規範意識を高くもつ生徒

2 手立てや取り組み内容

- ・ 学び合い活動の充実

学級活動や行事の際には、学び合い活動を設ける。学級全体で意見を出し合い、自他の意見を認め合いながら目標に 向けて協力できるようにする。

- ・ 日常生活での意識付け

あいさつ活動や3分前着席などの活動を徹底し、授業と休み時間のメリハリを付けるとともに
気分の良い行動を心掛けられるようにする。

3 努力点に直結する授業・取り組みについて

① 内容【学年学級会】

短所を言い換えてみよう～「リフレーミング活動」～

② ねらい

- ・ 自分の持ち味に気づき、音楽祭で取り組める具体的な方法を考えることができる。
- ・ 一人ひとりが自分の性格を前向きにとらえ、集団に寄与する方法を話し合うことで、自他の持ち味を認め合い、互いの信頼関係を深めようとすることができる。

③流れ

ア 否定的な言葉を肯定的な言葉に置き換えた例を示す。

イ 自分が考える短所と思われる点を書き出す。

ウ 小集団で出された否定的な言葉を肯定的な言葉に置き換える。

エ 置き換えられた言葉を元に、音楽祭で寄与できる場面を話し合う。

オ 話し合いを元に、自分が音楽祭で活躍できる場面を考える。

4 研究協議で出た意見

【良かった点】

○自分に自信がもてるようになった。

○級友に対する見方を変えられることができた。

○互いの特性の違いに気付き「良さ」として受け入れることができるようになった。

【課題・反省点】

△ことば遊びのような話し合いになっているグループもあった。

△音楽祭での具体的な活動内容を考えられない生徒もいた。

【今後に向けて】

互いの特性の違いに気付き、尊重し合える足がかりになった。今後の話し合いでは、ルールの設定を徹底すると良い。また、日常生活の意識付けも合わせて行う。

授業・取り組みの際には空欄に
しておき、最終報告では研究協
議で出た意見をまとめて書く。

小中合同現職教育「学びのコンパス」について

日時:4月30日(火)14:50~

宝神中学校体育館

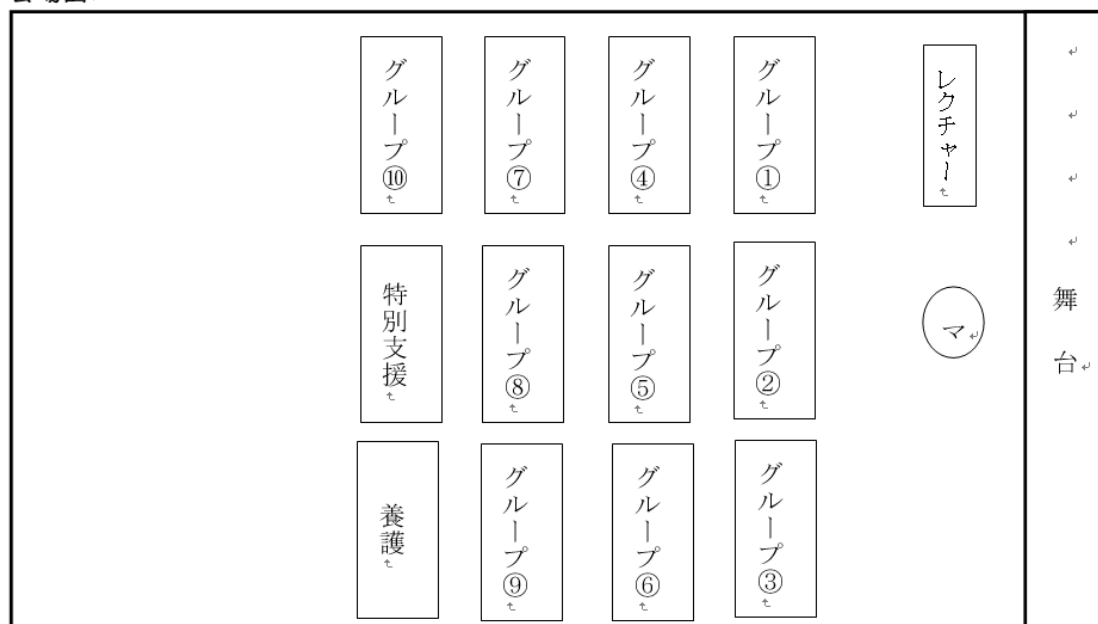
流れ:小中での対話集会【全体司会:坪井】

時間	内容	役割分担
14:50	1 はじめの言葉	大曾根校長 各校教務 グループ司会 宝神中
14:52	2 学びのコンパスについての概要説明	
15:02	3 対話集会(小中異校種グループ) ①自己紹介 ②「学びのコンパス」について分からないこと、困っていること、悩んでいることなどの共有や取り組みについての展望を自由に対話	
15:34	4 グループでの対話の内容を全体で共有	中川大輔先生 小島校長
15:42	5 新しい学校づくり推進室より指導・助言	
15:45	6 おわりの言葉	

グループ分けについて:宝神中、神宮寺小、港西小、高木小から各2名の8人グループを編成する
(グループについては独断で決めさせていただきます)

養護教諭グループ、特別支援学級グループ、通常学級グループとしてグループ編成を行う

会場図



空いているところにつめて